

東京都の世田谷区にある某中学校で、校則がなく、チャイムは朝1回鳴るだけ、制服は着ても着なくてもいい、タブレット端末や携帯電話も持ち込み可。多様なこどもに合わせた柔軟な教育に挑戦している中学校があります。教室に入りづらい、気分が悪い、部活に行きたくない、不登校、、、。どんな子も個性を生かして生き生きと学校生活を送り、勉強できる環境を整えるのがこの学校のモットー。壁となる「学校の常識」があれば取り払う。いいものは積極的に取り入れ、教師間の風通しもよく、教員全員で全生徒を見るようにしているそうです。

この学校の校長先生のインタビューでは、こんなことをおっしゃっています。

「個性を大切にすることを」と言いながら、実際には校則やルールで縛り、そこからはみ出す子や言うことを聞けない子は排除されていく。結局は先生や親の言うことをよく聞き守るルールや校則を守れる子が「いい子」という評価を受け、自分独自の意見を言ったり、個性を持った子はたたかれる。まさに「同調圧力」の象徴で、これは日本の社会全体の問題だと指摘されています。チャイムがないのはチャイムの音が苦痛な聴覚過敏のこどものため、廊下には個別の机やソファ、ハンモックなどがあるのは、その環境だと落ち着けるこどもたちのため、授業も好きな授業に出てもいいし、出なくてもいい、自分のタイミングで出たり出なかったりというように、みんなが一律に合わせていけない「校則やルール」は「無い」代わりに、一人ひとりのこどもが安心して落ち着ける「居場所（環境と信頼関係）」が「ある」のが、この中学校の一番の特徴です。

みなさんの生活や暮らしの中に「居場所」はあるでしょうか？ 多くの人が落ち着いて、安心して居場所になっているのは「我が家（自宅）」だと思います。でも、近年は子育てやしつけ、教育などに対する価値観が非常に「多様化」しているにも関わらず「孤立化」しています。その上、日本特有の「同調圧力」というのも根強く、大人もこどもも本当に「生きづらい」世の中になったなあと感じます。

私は保育においても、この「居場所」というものはとても大切だと思っています。こどもも大人（保育者、保護者）も、みんなそれぞれ一人ひとり違います。でも、まずはその一人ひとりの存在が受け入れられる、あたたかくて受容的な「園風土」、これがとても大切であると考えています。

「自分はここにいていいんだ」「またここに来たい（居たい）」「ここが落ち着く」「ここが好き」「ここが面白い楽しい」「（誰々）と会うのが楽しみ」など、こどもたちにはこんな感情を抱いて欲しいなと思っています。保護者の方には、「毎日送り迎え大変だけど毎朝、毎夕、園に行くと先生たちが笑顔で迎えてくれる」「家ではなかなか言うことを聞かないけど、こどもが毎日園に行くのを楽しみにしている」「園の方針や運営、連絡や報告など、時々不明なことや不満や疑問に感じることもあるけど、でも意見や話はきちんと聞いてくれる」「子ども同様に保護者も一人ひとりに合わせた対応や全体への周知を図ってくれる、、、」こんな保護者対応や保護者との関係性を目指しています。

今、どこにいても、何かと色々と気を使い、周囲の目や出来事が気になりますよね。私たちの天王寺保育所（園）が、こども一人ひとり、保護者の方々にとって安心して落ち着ける「居場所」となれるよう、これから職員みんなですんなり園風土を醸成していきたいと思っています。